熊谷市
記者クラブ取材情報

令和3年9月29日発表
担当課:教育委員会社会教育課(江南文化財センター)

タイトル

上北浦遺跡から出土した全国最大級の岩版

1. 日時　令和３年４月～６月（発掘調査期間）

2. 場所　上北浦遺跡(熊谷市江波２７－３)

3. 事業概要

・上北浦（かみきたうら）遺跡は、河川により形成された自然堤防上に所在する、主として今から約３，０００年前から始まる縄文時代後・晩期の集落遺跡です。
・発掘調査は、工場建設に先だって、令和３年４月から６月にかけて実施しました。
・縄文時代後・晩期では、竪穴建物跡８軒、土坑６基を検出しました。
・多量の縄文土器のほか、岩版、石棒・石剣、耳飾り、土偶、骨角器など呪術（まじない、占い）や儀礼に使用した道具が多数出土しました。
　なお、岩版は、護符（お守り）の用途とする説が一般的です（詳細は別添資料参照）。
・利根川に近い妻沼低地での縄文時代の遺跡の調査例は少なく、貴重な資料を得ることができました。

4. 特徴やPRポイント

・岩版の大きさは、復元すると縦２０㎝、横１４㎝となり、全国最大級、県内最大です。
・岩版は、彫り込まれた文様も復元して全体像を知ることができます。
・岩版は、これまでに熊谷市諏訪木遺跡（上之）で２点が出土しているほか、埼玉県内では加須市、久喜市、蓮田市、鴻巣市、桶川市などでも出土していますが、上北浦遺跡のものは最も遺存状況が良好です。
・大型の岩版は、近隣の群馬県桐生市・太田市・伊勢崎市、栃木県足利市・栃木市などでも出土しており、本遺跡の集落も、これらと同じ渡良瀬川や利根川流域の文化圏に属していたことが明らかになりました。

5. その他

・上北浦遺跡の出土遺物は、来年度から整理・調査報告作成作業に入るため、現在一般公開はしていません。
・今後、時機をみて、江南文化財センター等で展示公開する予定です。

※ 資料の有無（ 有 ・ 無 ）

担当者　山川守男（社会教育課文化財保護係）
連絡先　０４８－５３６－５０６２（江南文化財センター）

熊谷市上北浦遺跡発掘調査　記者会見資料（令和３年９月２９日）

１　上北浦遺跡の概要

⑴　所 在 地　　熊谷市江波字上北浦２７－３（市北部、現在の利根川まで１．５㎞）
⑵　調査期間　　令和３年４月１２日～６月２１日
⑶　調査原因　　工場建設に伴う雨水貯留槽建設のため
⑷　調査面積　　６６０㎡
⑸　立　　地　　妻沼低地で、利根川支流の福川に面した自然堤防上にあり、縄文時代から利根川の氾濫の影響を受ける地域

２　検出された遺構と遺物（別紙１）

⑴　縄文時代後・晩期（約３，０００年前～）

ア　遺構
　竪穴建物跡８軒、土坑６基

イ　遺物
　土器（深鉢、浅鉢、注口土器）
　石器（打製石斧、磨製石斧、石鏃、石錘、磨石、石皿）
　呪術儀礼に関わる遺物（別紙２・３）
　　岩版２点、石棒・石剣１０点以上、独鈷石１点
　　耳飾り３０点以上、土偶２点、骨角器１点、人面付き土器１点

⑵　その他の時代の遺構

ア　古墳時代（６世紀）竪穴建物跡４軒
イ　奈良時代（８世紀）溝跡１条
ウ　平安時代（１０世紀）竪穴建物跡１軒、性格不明遺構２か所
エ　中世（１３～１４世紀）堀跡１条、溝跡１条、井戸跡２基

３　縄文時代の上北浦遺跡の特色

○　**大型の岩版**が存在する。＝県内最大、全国的にも最大級

⑴　石質　　凝灰質泥岩
⑵　大きさ　長さ（縦）１９．２㎝、幅（横）１３．８㎝、厚さ３．２㎝
　　（復元推定長２０㎝、同幅１４㎝）
⑶　文様の構成

ア　表面　３段構成で、上段に一対になると見られる小孔を貫通させ、中段に小さい「Ｉ字文」を一対、下段に大きい「Ｉ字文」一対とその間に楕円形の彫り込みを配す。

イ　裏面　３段構成で、上段貫通孔の間に貫通しない小穴１か所、中段に線刻で渦巻文一対、下段に「Ｉ字文」３列を配す。下段の「Ｉ字文」は彫り込みが浅く不明瞭。
　※本例の「Ｉ字文」は、典型的な「Ｉ字文」の前段階のものである。

⑷　出土状況
　中世の堀跡の底面から出土した。中世当時に堀を造るための掘削で下層に存在する縄文時代の遺物包含層を掘り抜いた際、出土した岩版を堀の中に投げ入れた（廃棄か）と考えられる。

○　利根川の氾濫の影響を大きく受ける低地帯に存在する。

⑴　縄文時代の後・晩期の遺跡は、水害を受けにくい台地の縁辺部やその直下にある例が多い。埼玉県内では、県南部の大宮台地の縁辺部や、当時は台地だったがその後に埋没した県東部で多数の遺跡の存在が確認されている。

⑵　上北浦遺跡のように低地帯中央部に存在する縄文時代の遺跡は、調査例が少ない。

４　岩版が出土した近隣の遺跡と岩版の大きさ（別紙４）

出　土　遺　跡	長さ（cm）	幅（cm）	備　考
《埼玉県》			
上北浦(かみきたうら)遺跡（熊谷市）	**(19.2)→[20]**	**(13.8)→[14]**	市内３番目の出土
諏訪木(すわのき)遺跡（熊谷市）	**11.1**	**8.0**	
諏訪木(すわのき)遺跡（熊谷市）	**11.0**	**8.9**	岩偶と報告
長竹(ながたけ)遺跡（加須市）	(9.0)	(11.1)→[14.5]	
小林八束(おばやしはっそく)１遺跡（久喜市）	(12.0)	(12.3)	
久台(きゅうだい)遺跡（蓮田市）	(6.4)	(8.7)→[9]	
赤城(あかぎ)遺跡（鴻巣市）	(8.3)	(6.2)	
後谷(うしろや)遺跡（桶川市）	(12.5)	(14.4)→[15]	
《群馬県》			
千網谷戸(ちあみがいと)遺跡（桐生市）	(10.0)	17.2	
石之塔(いしのとう)遺跡（太田市）	(12.5)	17.3	
北米岡(きたよねおか)遺跡（伊勢崎市）	**26.2**	**16.6**	全国最大 国重要文化財
《栃木県》			
あがた駅南遺跡（足利市）	**20.0**	**15.0**	全国最大級と報道
藤岡神社遺跡（栃木市）	**9.7**	**9.4**	

・複数の個体が出土している場合（熊谷市内を除く）は、最も大きい個体の計測値
・欠損がない場合の計測値＝**ゴシック**
・欠損がある場合の計測値＝（　）
・復元推定した計測値＝→［　］

◆　参考

岩版とは

「岩版・土版は、材質が泥岩ないしは粘土からなる版状の遺物である。破壊した状態で出土することが多く、また赤色塗彩を施したものがあることから、宗教的な遺物の一種と考えられている。縄文時代の晩期に発達し、その分布は大きくみて東北地方と関東地方の二地域を中心とする。　…岩版・土版を護符とする説は、これまでにそういった用途を示すような出土例はないものの、今日最も一般的な見解となっている。」

（稲野彰子　1982「関東地方における岩版・土版の文様」『史学』52 巻 2 号 三田史学会　より）

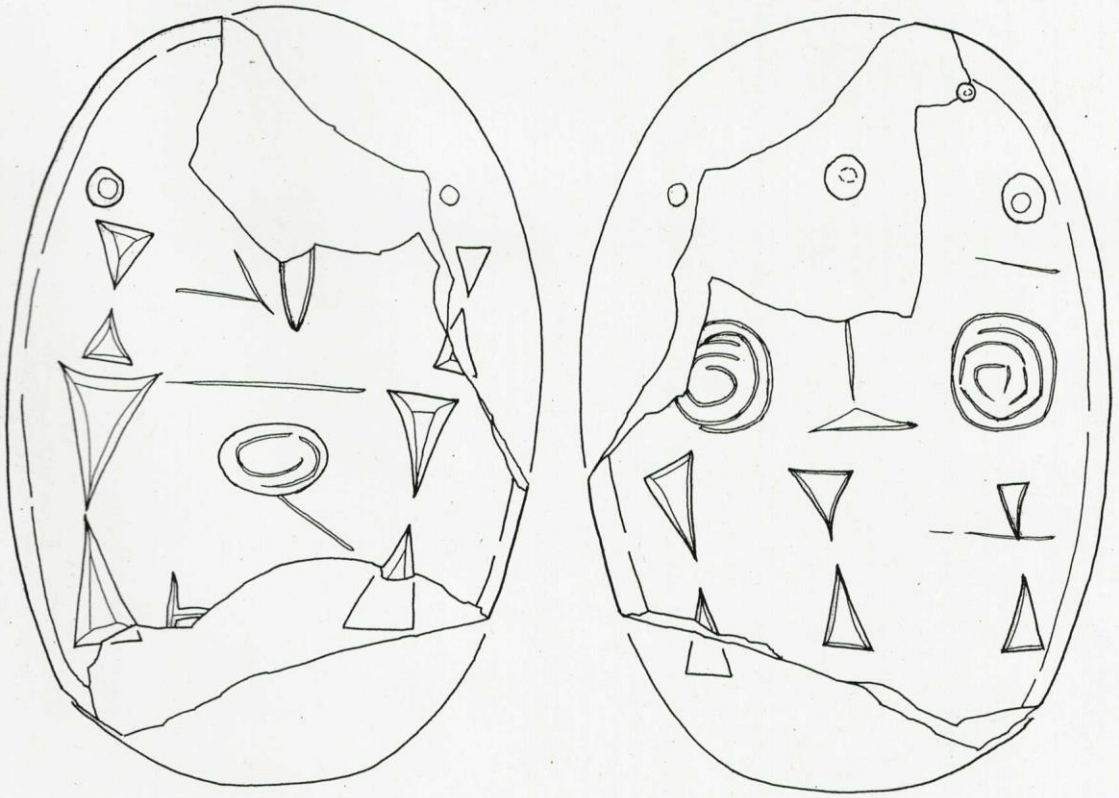
別紙２



岩版　表面



岩版　裏面





岩版　実測・復元図



独鈷石（左から１点目）、石棒（２点目：頭部線刻）、石剣（右２点）



耳飾り（上段５点、下段左３点）
土偶（下段右から３点目：腕部片、右から２点目：脚部片）、骨角器